



俳句ゆめクラブ会報

2023年3月28日

第 153 号

互 選

寒い、寒いと言っている内にいつの間にか冬も過ぎ
そして三月も終わろうとしている、今月は世界野球の
WBCがあり侍ジャパンが第一次ラウンドを全勝で
勝ち進むという快挙で日本中が沸き、それに合わせる
ように桜の花も何時になく早く咲いて一挙に春らしく
なった。

そうした中で今年初めての県活での句会、参加者も
全員参加の11人で、兼題は「初桜」であった。

梅田先生の句

一輪車乗り回す子やミモザ咲く
青き踏む尊きものを踏むごとく
廃校にひとり遊ぶ子初ざくら

梅田先生選

《特選》

黒田杏子氏

かの人の逝きて悲しき初桜
初桜見れるのはあと幾年ぞ
ランドセル背負ふ六歳風光る
花の雨いつしか肩をすぼめをり
ほのぼのと空白みけり初桜
この国に居ること嬉し初桜
優勝の侍ジャパン山笑ふ

吉野利美子
八千代幸男
長澤輝子
小林健一郎
岩松忠子
鈴木幸恵
岡田時雄

《入選》

昼の日の甘く蛙の目借時
傘へ落つ桜花の雫弾け散る
参道の青空へ抜け花辛夷
夢抱き旅立つ孫や初桜
病む友の今年限りの桜かな
荒畑に打ち捨てられし大根咲く
春場所や若き力士の逞しく

ゆくほどに今日の富士より初桜
森深き空より零れ百千鳥
桜咲く歓喜の侍ジャパンかな
農具置く小山覆ひし諸葛采
桜咲く侍ジャパン世界一
盛り土の故郷いづくつくしんぼ
娘よりラインで届く卒業式
海上にはるか浮く富士春岬
中空にほつほつ淡き初桜
宝石のやうな煌めき初桜
杖ついて集まる友も花衣
幸運の左へ向かふ蝻の道
世界一侍ニッポン花盛る
黄水仙香り届けとラッパ鳴る
一二輪目を凝らし見る初桜
落椿三つ並べておままごと

吉野利美子
瀬戸川公子
八千代幸男
長澤輝子
浅見法子
岩松忠子
小林健一郎
宮島昭夫
浅見法子
長澤輝子
宮島昭夫
八千代幸男
岡田時雄
浅見法子
鈴木幸恵
瀬戸川公子
小林健一郎
鈴木幸恵
吉野利美子
宮島昭夫
瀬戸川公子
岡田時雄
岩松忠子

兼題 「春惜しむ」

(当番：鈴木、小林)

〔決定事項・連絡事項〕

・次回句会 4月25日(火)

県活・2022号室(13時より)

・4月25日の句会で前期会費を徴収しますので
ご用意をお願い致します(3000円)。

・5月は吟行で伊奈薔薇園を予定しています。
詳細は4月の句会までに決定とのこと。

・今回は11名全員出席

(小林健一郎記)

(了)